

座長コラム「長岡の風」

第10回 2024年7月

「商工中金長岡支店」

長岡経済・産業連携会議 座長：高野裕

商工中金長岡支店にお邪魔し、木村支店長から説明を受けながら、見学させていただいた。

この建物は昭和49年1月営業開始というから、築50年ということになる。当初1階は店舗、2階は事務室、3階は会議室、4階は食堂という利用状況であったが、現在は1階が店舗事務室、2階は休憩室、相談室、3階はあまり使っていない会議室、4階はすでに利用を中止している食堂となっている。食堂が当初から用意されていたとは驚きだった。我々は屋上に上がってみた。屋上には非常用電源装置など置かれており、周りのビルは高いビルばかりで谷間のようにになっているものの、駅前方面は青空駐車場となっているため、駅前までの空間がひらけている。ビルの裏側は新幹線の高さと同じで、ちょうど東京方面からの新幹線が長岡駅に入るところが見える位置にいる。「ここで新幹線が入ってきたら絵になるなあ」などと思いながら見ていた。

1階の店舗は天井が高く、奥には大金庫が構え、大金庫の扉の厚さは私の手の幅ほどあり、金融機関としての威厳と特徴を出していた。オープン当初は53名の職員でスタートしたというが、現在はその半分以下になっているという。

この建物を利用するのは後数年という。それは、今建設改装中の「ミライエ」東棟が出来たら、そこに引っ越しが決まっているからだという。そのため、現在は建物の補修などほとんどできない状況。さらに、新しい所に引っ越すと面積が狭くなるので、保存書類を電子化する作業の真っ最中だという。日常業務の他に、引っ越しに向けた準備を進めなければならない「スタッフの皆さんは大変だろうな」と思いながら聞いていた。

ちなみに、「ミライエ」東棟は北越銀行本店の建物で立派な大理石の外壁造りである。あの建物をわざわざ取り壊さず、改装すると聞いていたときは、あの外壁

の大理石を残すために内部だけを改装するのかと思って聞いていた。しかし、よくよく聞いてみたら、外壁も取り壊し骨組みだけを残して改装するのだという。ただ、仕上がりの外観は現在と似たような風合いになるのだという。

以上

<屋上からの写真>（上：駅前方面、下：新幹線方面）

